JAいるま野 写真コンテスト

四季折々ゆたかな自然に恵まれ、産業・文化など様々な分野で発展するいるま野地域を都市と農業が調和した緑豊かな自然・文化を「残したい・伝えたい・いるま野の風景」として表現いただきました。

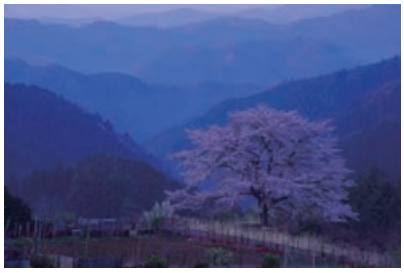
応募作品71点の中より、入賞作品7点をご紹介いたします。

最優秀賞　「水田から富士をのぞむ」
さいたま市
早野　由香さん

優秀賞「ばーちゃんの収穫の手伝い」
鶴ヶ島市　丹羽　三智代さん

優秀賞　「豊穣の秋」
入間市　池田　紘治さん

入　選
「カルガモの散歩」
日高市　金益　隆志さん



入　選　「山里の春」
狭山市　久保田　省三さん

入　選　「菜の花咲くころ」
毛呂山町
大谷木　春男さん

入　選　「穏やかな田植え日和」
坂戸市　鈴木　行男さん

審査員講評
（日本農業新聞）

最優秀「水田から富士をのぞむ」　さいたま市　早野　由香さん

遠くに富士山をのぞみ、手前一面に広がる水田。水田の先には、住宅や工場らしき建物が並ぶ。関東平野の西に位置し、代表的な都市近郊農業地帯、ＪＡいるま野らしい光景と思わせる写真。構図は、水田部分を多くし、富士山を少し入れることで、主役はあくまで水田にしている点もよかった。

優　秀「ばーちゃんの収穫の手伝い」　鶴ヶ島市　丹羽　三智代さん

農家の祖母と孫娘（ひ孫？）か。ふたりとも長靴を履いており、夕食の食材に、畑で野菜を収穫してきた帰りなのだろうか。都市化が一層進んでも、こうした風景が残ってほしいと思う。後ろ姿を撮り、２人の顔、表情が分からないことで、「どんな家族なんだろう」などと想像したくなる写真になった。

優　秀「豊穣の秋」　入間市　池田　紘治さん

今では珍しい稲架掛けのある稲刈り風景。刈り取った稲の向こうで作業をする人たちの姿に、心が和む。稲架掛けした稲を主題にし、作業する人たちを稲の下から覗いたところもおもしろく、評価したい。